会員企業大いに語る！

編集局インタビュー⑥

M.R.ランガナタン
（M.R.Ranganathan）

ニホンテクノロジープライベートリミテッド代表取締役社長
（Nihon Technology Pvt. Ltd.　President）

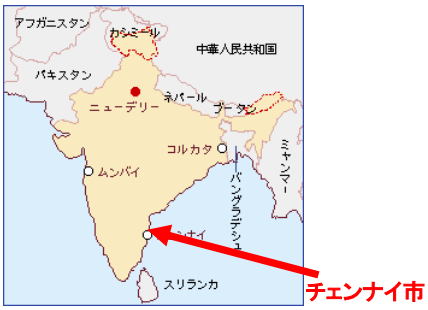
会社概要

ビジョン　ニホン　テクノロジー[NTPL]は一流のソフトウェア会社を目指し、世界二番目の経済大国である日本向けにサービスをご提供致します。弊社は企業倫理を優先して、業務に関する顧客、社員及び株主の要求を満たすように努力しております。

ミッション　ニホン　テクノロジー[NTPL]は日本の顧客に革新的なテクノロジーと能力のある人材を提供することにより差別化を図ります。その結果、社員及び株主にも価値をもたらします。（HP より）

ランガナタンさんのプロフィール

出身地：インド　チェンナイ市　年齢：65 歳
家族構成：奥様、お嬢様 2 人　（2 人とも結婚されている）



ランガナタン社長が金沢に来られた機会にあわせ、石川県情報システム工業会会議室で、ランガナタン社長と営業のシバさんから約 1 時間のインタビューをさせて頂きました。（以下は要約です）

編集局　日本に来られてどのくらいですか？
社　長　1972 年に来日して、日本の企業で技術研修を受けました。インドで建設関係の仕事をしていましたが、1992 年に日本のIT企業で仕事をすることになり所沢に住んでいました。所沢に住むことにした理由は、日本の友人が住んでいたからです。
イギリスの大学時代の友達よりも、日本の友人達との絆の方が深いですね。

シバさん　8 年前に来日してIT企業でエンジニアをしていました。日本語はそこで学びました。
最初は関西弁だったんですよ。今は標準語で話すようにしています。金沢弁は難しいですね。

編集局　日本人のどこが好きですか？
社　長　ビジネスの相手と友達とでは、少し違いがあります。ビジネスの相手としては厳しいです。
でも友達としては世界で一番優しい関係になれます。まるで家族のようです。

編集局　ご家族のことを教えてください。
社　長　妻は専業主婦です。料理が得意で、いつも私の健康に気を配ってくれています。
上の娘はチェンナイで教師をしています。近くに住んでいるので孫たちが毎日のように遊びにきます。
下の娘は結婚してロスに住んでいます。

編集局　お仕事についてお聞かせください？
社　長　NTPLは 1 年半前に設立しました。日本企業を対象にしたビジネスを展開しています。
現在チェンナイでは、社員は 125 名で、その内日本人は 2 人です。社内では日本語を使うことにしています。日本語力を向上させて仕事に生かすようにしています。

編集局　具体的にはどのような取引がありますか？
シバさん　開発（生産性をあげるツール）、翻訳、企業向け研修を主に取り扱っています。
金沢で常駐している社員は現在 1 名ですが、こちらの企業から受注した開発の仕事をチェンナイで行っています。金沢の企業とは、北陸インドジャパンクラブの紹介でお取引が始まりました。

編集局　金沢の印象はどうですか？
社　長　人は親切だし、歴史と文化が素晴らしいです。
特に、加賀友禅や兼六園に興味を持ちました。病気をしてからはベジタリアンなので加賀野菜を食べてみたいですね。

ランガナタンさん（左）とシバさん（右）

編集局　ご趣味何ですか？
社　長　写真は 15 年ほどやっています。
切手収集も好きで、1 万枚くらい集めました。
これは文化交流も兼ねて、チェンナイで展示会も開いています。
明治天皇のお顔を初めて知ったのも切手からでした。先日は、東京の中央郵便局で自分の切手を作りましたよ。今はプリクラのように簡単に作れますね。

編集局　今後のビジョンは？
社　長　企業研修に力を入れたいと思っています。これからのIT産業はグローバルにやっていかなければならないことは日本の企業もわかっています。しかしまだまだ英語力が不足しています。
それを補うために社員をインドで語学研修させている企業もあります。
英語は勿論、インドのことを知ってもらえるようケーススタディもいれた研修を行っていきたいと思っています。インドへ進出したい企業のためのコーディネートや通訳、インドの習慣や文化、企業人の考え方、様々なノウハウを提供したいと考えています。
チェンナイには現在日本の企業が 53 社あります。年末には 80 社に増える見込みです。これからは金沢の企業もドンドン進出してほしいと思います。
わが社は 5 年後、日本に進出しているインド企業の TOP10 に入っていたいと思っています。

シバさん　インドに ATM やキオスクなどの日本の技術を持っていきたいです。金沢のIT企業は研究開発が得意のようなので、一緒に開発ができるといいですね。

編集局　ISA へ一言お願いします。
社　長　是非石川の企業をチェンナイへ連れてきてください。インドには多くのビジネスチャンスがあります。

＜編集局ブログ＞
今回のお相手はインドの方と聞いて、心臓に毛が生えている編集局も少し戸惑いました。
勿論、言葉のこともありましたが、それよりインドと言えばカレーと踊るマハラジャぐらいしか思い浮かばないので、文化の違いなどで失礼があってはいけないという妙なプレッシャーがありました。
とはいえ、日本風の挨拶で登場されたので、そこからは緊張が一気にほぐれてしまいました。
ランガナタン社長もシバさんも流暢な日本語で、ジョークも OK で、インタビューにも丁寧に応えて頂きました。
この説明をしている時のランガナタンさん、まるでウィッキーさんみたいに日本語が上手でした。
シバさんは PC ならば、日本語の読み書きも出来るそうです。
日本にきて 8 年でここまでペラペラって凄い！
ランガダナンさんはスープの冷めない距離に娘さん夫婦が住んでいて孫と遊ぶのが楽しみだそうです。シバさんは結婚してから、この世で一番奥さんが怖いとのこと・・・・・インドの家庭事情が垣間見る事ができ、インドのことがもっと知りたくなりました。